

# 靈魂は常に消ゆる事無く

# 大和帰神墓地鎮祭



# 大和の光

12月号

《発行所》

大和教団  
仙台市青葉区錦町2-4-24  
大和教団本庁  
電話(代)022-261-2525番  
振替仙台02220-3-45512  
発行人 大和教団 定価50円



神紋

八咫鏡と太陽を  
かたどつたもの  
で、國家の隆昌  
と世界の共存共  
栄を意味してお  
ります。

## この年を省みて

令和五年も、余すところ一ヶ月となつた。この年こそは組織構築をと望みて、数々の講習会も為してきたが、第一階梯は上るのだが、第二階梯へと上れず足踏み状態にある。それでもその第二階梯を上りゆかねば先へは進めぬは道理ではある。教師等は私の指導する布教展開が何故に実行できぬか不可解なれど、仕方なしと捨て去ることは出来得ぬことも承知の身上にある。そのようなもがきの中、十一月の十種大行の講義にて“こうすればよい”の一つの考えがおきた。この考え方を大神にお尋ねすると、その方針でよしと下された。我が教えは大和である。宇宙神理を学ぶ天地自然の惟神の大道であるをや。宗教とか信仰とかの概念を払拭なして道を説けばよいとの論じではあつた。汝がこれまで数々のことを為してきたが、その為したることをもつと自由に。自在に大らかになせばそれでよい。人も喜びて馳せ参るであろうと。

今、私ははつきりとした絵図を描いている。宗教の概念、信仰の概念は、我が大和には全く必要なきを悟るものであつた。あえて宗教と云えば宗教を超えた宗教、信仰と云えば信仰を超えた信仰とのことが我が心に神光(みひかり)となつて煌々と灯り始めた。善は急げのごと、新制大和の集いを十二月十七日に開催することになった。相双分祠所属の二人の若き准教師が勇んで友人知人を集めている。この集いがこれからの大和の組織造りとなるであろうことを信念するのである。己れの人生にさまよいし多くの人に生きる喜びと光明を与えることができるであろうことを。

私は一千日大行を繰り返し、繰り返しながら、これまで悪いもちはなくなりながらも、何の憂いもなくおつとめさせて頂けたことは実際に奇麗なることではあつた。また、この如き身上故に、義理ある方には早くにご挨拶をの思いたくなり、三月には新宗連会合にて円応教深田充啓先生へ、京都の三千院門主小堀光實先生へ、合氣道の小林保雄先生へとご挨拶し上げた。来年はまた何人かの先生のもとへ参らねばと考えてい



返しながら、十年程前頃から糖尿病と診断され一番軽い薬を一粒頂いてきたが、行明け後の二年前頃、皮膚の病にかかりて今も薬を飲み体にも塗っている。皮膚病の治りも思うに任せず、この際人間ドッグに入り全てを検査するのとなり、利さを知る。検査結果、いろいろと問題のあるところが発見され、詳しく診てもらうを勧められた。五月初旬には大腸のポリープ陽性二つを内視鏡施術で摘出、次に目のレーザー光線施術、その後網膜の注射施術と。

予ての私の願いの一つでもあつた素盞鳴尊・櫛名田比売の大神等を奉祀する特別の石造りのお宮を建立することになつた。心篤き人々に奉賛を願いて二か月にてまとめて頂き、この十一月二十八日に御神靈鎮之儀並竣工奉告祭を迎えて頂くことになつた。石駒さんが予てより造りていたものである。私の申し出を待つがごときの奇すしき縁を見るものであつた。

更に来年はみやぎ靈園の大和墓苑の斎庭に教信奉者の合祀墓を建立、七月七日には竣工祭が予定されている。教主としての当面の事業は一段落をみることになる。今後のなすべき聖行は開教神大國主大神の“大和の大御名でこの世を清め為せ”とのご神命を果すことにある。

“大和の御教え天地に満つる”ごと、開祖さまとの誓いを果さねばない。教師等の為し難きであつた厚い壁を、今度こそは打ち破りて第一階梯を上らねばない。更なる信奉者の皆様の篤き熱い信心の力を乞い願う次第である。

# 立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

十一月十日午前十時仙台市青葉区の「みやぎ靈園」において、大和帰神墓の地鎮祭が斎行された。

儀式は修祓の後、斎主嗣親様のもと、降神の儀にて神々をお招き申し上げ、海川山野の匂の神饌物が献饌され、厳かに祝詞が奏上された。

四方清浄の儀にて建立地の御清をなし、草刈初之儀では忌鎌をみやぎ靈園部長代理の尾形寿彦様、課長の庄司正樹様がご奉仕申し上げ、「エイツ、エイツ、エイツ」との掛け声と共に草を刈られた。

また穿初之儀では忌鎌を教主様がなされ、掛け声と共に鎌が入れられた。忌鎌は施工をされる株式会社上郡店代表取締役上郡長様、築山造成担当の庭工房ひろ代表大沼宏之様が掛け声と共に鎌を入れられた。

引き続き、玉串奉奠が執り行われ、教主様をはじめ、施工関係様、合祀申込をなされた教信奉者の皆さま方



教主様より御親教を賜る

十一月十日午前十時仙台市青葉区の「みやぎ靈園」において、大和帰神墓の地鎮祭が斎行された。

儀式は修祓の後、斎主嗣親様のもと、降神の儀にて神々をお招き申し上げ、海川山野の匂の神饌物が献饌され、厳かに祝詞が奏上された。

四方清浄の儀にて建立地の御清をなし、草刈初之儀では忌鎌をみやぎ靈園部長代理の尾形寿彦様、課長の庄司正樹様がご奉仕申し上げ、「エイツ、エイツ、エイツ」との掛け声と共に草を刈られた。

また穿初之儀では忌鎌を教主様がなされ、掛け声と共に鎌が入れられた。忌鎌は施工をされる株式会社上郡店代表取締役上郡長様、築山造成担当の庭工房ひろ代表大沼宏之様が掛け声と共に鎌を入れられた。

引き続き、玉串奉奠が執り行われ、教主様をはじめ、施工関係様、合祀申込をなされた教信奉者の皆さま方

## 大和帰神墓建立地鎮祭

が順に拝礼をなされた。修祭後の挨拶で教主様は肉体は土に還り、魂は天に還るが如く、大自然の中に抱かれ、大自然の中で循環し、また再び来世は世人の為となり得る、尊き人として生まれて来るようとの想いを持ちてこの帰神墓建立の意味を説かれ、墳墓となる築山は土にての前方石塔後円墳を建立する旨をお話下された。

結びに御神酒拝戴が行われ、会場を大國神社参集殿に移し直会となつた。嗣親様よりご挨拶を頂き、施工者各位よりもお言葉を頂いた。神人和楽の直会となり。大和帰神墓にて人生儀礼の全てが整うべく動きとなるを大神様も殊の外お喜びのことと拝察するものである。

私たちの墳墓の教えというものは、肉体が浄化し、沢山の神々が働いて下さり再生し、また甦る。天なる命と、生涯使わせて頂いた肉体に感謝して、大地の神々、幽玄土の神様を始め多くの神々のお働きで肉体の素を造られ、その中に天津大靈の生命がさし込まれ再生するのです。

お墓の理想形状は前方後円墳と云われます。大和帰神墓は開祖様の奥都城を少し小さくしたものがここに建立されます。築山、円墳の中に亡骸を納めます。その前には祈りの石塔が建ちます。神道墓は頂きが尖つており、一つひとつの形に力があります。お墓も器教としての教えがあります。仏教は仏教の教えがあります。神道は神道の教えがあります。神様から授けられた独特的の形となります。この地は開祖様が信者さんから勧められて購入した土地四十八坪です。私の恩師である半澤義巳先生といつて東北学院榴岡高校や東北高校の校長先生をされた方のお墓は小さいながらも初めて帰神墳墓型にておつくりをさせて頂きました。

様々な勉強をして様々な形を神様に願つて、御靈の安寧をとの象を顕しております。現身（うつそみ）、体は無くなつたら土に歸ります。この大地、地球に歸すのです。そして新たな命の元をつくりていくのです。そこで神様が命を下さいます。

人は万物の靈長といって、鳥獸草木四足二足毛長、全ての生き物の中で人間の命が、一番位が高く、また甦ることが出来ます。蛇や虫等ではなく、人としての命に甦りたいものです。人でも悪い人の命に宿ることのないように、此の世で素晴らしい働きをする人の命になつて、私はご苦勞様で御座いました。

たちの亡骸を使つてもらえるようにとの思いを、神様は私に諭し下されました。大和神帰墓は、皆さんの考えているお墓のお墓ではありません。土に歸すということ。そこで多くの神々が再生復活のための働きをして下さいます。そこに私たちは祈りを込めて、埋納した遺族の方々の祈りを込めて、ずつと祈念していくわけです。その祈りが力を頼ります。私たちの魂は天に、神様に歸ります。

私は一度や二度のお墓参りで良しとしておりますが、本当に土に歸すと、いうことを思えば、それで終わりではありません。私たちの命は二つ。靈魂は消えません。肉体は土に歸る。土に亡骸を納めます。

説きます。肉体と精神、この体は無くなつたら土に歸ると教えています。

この地球、大地に歸るのです。魂は永遠に消えることなく天に歸ります。いずれも清めに清めていくのが子孫の私たちの務めです。今はまだ一年に一度や二度のお墓参りで良しとしておりますが、本当に土に歸すと、いうことを思えば、それで終わりではありません。私たちの命は二つ。靈魂は消えません。肉体は土に歸る。

私たちの魂は天に、神様に歸ります。神々が再生復活のための働きをして下さいます。そこに私たちは祈りを込めて、埋納した遺族の方々の祈りを込めて、ずつと祈念していくわけです。その祈りが力を頼ります。私たちの魂は天に、神様に歸ります。

たちの亡骸を使つてもらえるようにとの思いを、神様は私に諭し下されました。大和神帰墓は、皆さんの考えているお墓のお墓ではありません。土に歸すということ。そこで多くの神々が再生復活のための働きをして下さいます。そこに私たちは祈りを込めて、埋納した遺族の方々の祈りを込めて、ずつと祈念していくわけです。その祈りが力を頼ります。私たちの魂は天に、神様に歸ります。

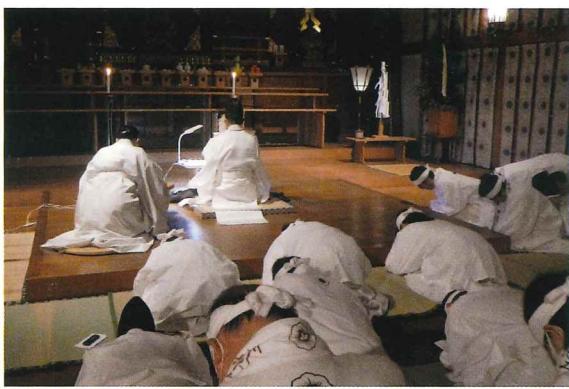
説きます。肉体と精神、この体は無くなつたら土に歸ると教えています。

この地球、大地に歸るのです。魂は永遠に消えることなく天に歸ります。いずれも清めに清めていくのが子孫の私たちの務めです。今はまだ一年に一度や二度のお墓参りで良しとしておりますが、本当に土に歸すと、いうことを思えば、それで終わりではありません。私たちの命は二つ。靈魂は消えません。肉体は土に歸る。

説きます。肉体と精神、この体は無くなつたら土に歸ると教えています。

この地球、大地に歸るのです。魂は永遠に消えることなく天に歸ります。いずれも清めに清めていくのが子孫の私たちの務めです。今はまだ一年に一度や二度のお墓参りで良しとしておりますが、本当に土に歸すと、いうことを思えば、それで終わりではありません。私たちの命は二つ。靈魂は消えません。肉体は土に歸る。</p

本年は教務部長畠山真由美教師が審査者の大役をお仕え申し上げ、謹んで御神託を押し奉つた。  
先ず、神主教主様に国常立大神様が御降臨あそばされ、教師・役員に対し大神様の大御心をお伝え下され明くる年、令和六年における天災・自然気候の動きについて、農業や漁業、林業、政治・経済、世界的な戦争問題、我が国を取り巻く安全保障の展望、北朝鮮による拉致問題等、多岐に亘り御神託を押し奉つた。  
次に大國主大神様が御降臨あそばされ、「大和に仕えし者は己の務めをしかど心得ねばならず、縁を持ちし者を根底より救わねばない。」との御言葉を下された。また、既に根は張つてあるが故、道を立て芽を出



神々より有り難きお諭しを賜る

年之御神託祭

させるだけであることをお諭し下された。儀式後、教主様より御親教を賜り、今年の一年之御神託祭は滞りなく申し修められた。

十一月二十八日、大國神社祈禱殿において、「一年之御神託祭」が斎行された。



## 教主様を真中に記念撮影

# 大和三大行結行 十種大行

本教三大行の結行となる十種大行が十一月十八、十九日両日に亘り執行された。初日、教主様の斎主にて始奉告祭が斎行され、顯幽参行者名の言上がなされた。十種神宝の秘祝詞本が初参行者に授けられた。記念撮影の後、教主様より修行についての特別御親教を賜り、秘詞の解説、天地宇宙の法則等の尊い御教えを頂いた。続いて、教務部長

御本殿において第四座心願諸願達成行が嗣親様先達により執行され、参行者の願いが大前に祈念された。次に祖靈殿へと移り、淨靈帰神行を申し修め、先祖・故人・関縁の靈神、諸靈諸魂の淨化淨靈を申し上げた。続く第五座は横尾匡彦教師が、結びの第六座は品川弓教師が先達をつとめ、産靈氣吹行にて本行は修められた。

結びに嗣親様が総括を申し上げ、皆での和みの庭を行い、修了奉告祭にて幽顯参行者をお送り申し上げ、参行者皆に修行之証が授与された。

行修後の直会では、各々の行での感想を語りあり、賜り物を有難く頂き散会となつた。

明くる二日目は早朝五時に御本殿へと参集し嗣親様先達のもと拝礼を申し上げた後、御本殿前神庭において円陣を組み田中道敏教師先達による天之鳥船神事を行修した。

次に太陽拝である日拝鎮魂を行修し天照大御神の天津大靈の御靈を拝した。

次に国旗、教団旗の掲揚が行われた。

は皆渾身の力を持つて大声を出し、  
体の邪氣を全て祓い禊ぎ、産靈氣吹  
行を修めた。

休憩を挟んでの第二座は、熊川知  
長教師、第三座を田中道敏教師がそ  
れぞれ先達を務め、己の中の汚濁を  
吐き出すべく発声し、只管に祝詞を  
唱え自身の祓禊を行修、一座ごとに  
産靈氣吹行を修めた。

この後、夕食を頂き、早めの就寝

皆さんは、言葉が使えて目も見えます。幸せなことです。体の不自由な方は世の中には沢山いらっしゃいます。よく、五体満足と申しますが五体とは頭、首、同体、両足、両腕をいいます。一番大切なのは腹で、腹脳と申します。頭は頭脳といいます。心優しく、温かくともそれらを包んでいる体が弱かつたら中々大変です。自分の思うようにいかないと人は悩みます。私達の存在には父母とずっと連なつております。誰か一人でも欠けていれば今ここにはおりません。ですから亡くなつた人も生きていると私は説きます。身体は無くなるけど魂は生きているのです。信仰というのは見えない世界の



御本殿広前にて天之島船神事を行修

# 教主様御親教

なりたい、そういう人の命の一部になりたいものと清めて、清めて、もう一回人として生まれ変われるような体をつくっていきたいものです。そのためにも、自分の中の命と天地の神々と交流し、天地宇宙とつながるような祈りをしなくてはなりません。この宇宙は創造と破壊しかありません。この世で生きる力、大和では六つの力をいいます。私たちの心には善と惡、一枚の紙にも表と裏、この体を包んでいるのが心や魂。これが元々の命です。私共には”一靈四魂”といつて荒魂・和魂・幸魂・奇魂という魂の働きがあります。幸魂奇魂は、和魂という魂の中に働きがあります。荒魂は勇気と智恵と判

物、魚が出てきました。やは、空を  
飛ぶ生物、鳥等です。コは、四つ足  
の這う獸が出ました。トで、最後に  
私たちヒトが誕生致しました。お母  
さんの胎内で何億年という生命の巡  
りを体験している訳です。宇宙生命  
の進化を十月十日の中で体験し記憶  
されているのです。前世として、何  
遍も甦る命もあります。私たちは信  
仰の力によつて人の世、社会の為に

“ビフミヨイムナヤコト”、ヒは何もない広大な宇宙にエネルギーが灯りました。暗闇にパツと命の光が灯つたのです。天之御中主大神とお称えしました。フはフと氣体が流れました。ミは、固まつて液体になりました。大海原を司るのが素戔鳴尊の神さまで。ヨは土。大地が出来ました。イは、バクテリアのような菌類が出ました。ムは、草木、虫が

その太陽が休んでしまうとしたらどうなりますか。身体も五臓六腑が休息などなるでしょうか。自分の為に必死で働いています。それが神の天地宇宙です。働きすぎめなのです。人は全く欲望が無かつたら生きているとは言えません。自分の命を守るというものです。ひとつの生命欲という欲望は必要です。但し、それも過ぎてはなりません。そのためにも天地宇宙の法則をよく勉強して下さい。大和は大きな和魂。そこに争いは有りません。大和の教えで“争うは愛の足らぬもの”とあります。大和では争うということは「愛が足りません」と教えております。大和は因縁解除だけの宗教ではありません。

力の試し合いなどは致しません。太陽さんは太陽さんの分に応じた務めを果たし、地球も月も夫々の力をもつて働いております。これを天理天則といいます。今は家族の三世代同居が無くなつてしましました。鶴の一聲の統一する力が無くなると、子供等が勝手なことをして破壊をしてしまいます。宇宙法則に反していくます。太陽系宇宙は太陽が中心にあり、

私たち人間、人、靈止（ヒト）です。体の中に魂が宿つて靈止といいます。出雲地方では命が宿ることを「入らしやつ」といいます。

黙りです。皆さんはお持ちでないのです。自分の凄い力なんて何も知らないでいます。天地宇宙からもつと頂いて下さいということなのです。生きいくと次々と悩みが出てきます。それを解決するためにどういった努力をするかなのです。自由博愛なんていいます、今も世界は殺し合いばかりしています。太陽さんは天照大御神、この地球は素戔嗚尊大神であり大國主大神、お月さんは月読の神様。神々は争えとか殺し合えと教えてはおりません。形あるこの世界で何をするかでしょう。そこには真心しかありません。我々信仰者は神様を敬い信じて、そして感謝なのです。太陽、地球、お月様は力の試し合いなどは致しません。太陽さんは太陽さんの分に応じた務めを果たし、地球も月も夫々の力をもつて働いております。これを天理天則といいます。今は家族の三世代同居が無くなつてしましました。鶴の一聲の統一する力が無くなると、子供等が勝手なことをして破壊をしてしまいます。宇宙法則に反していません。太陽系宇宙は太陽が中心にあり、その太陽が休んではしまうとしたらどうなりますか。身体も五臓六腑が休むとどうなるでしょうか。自分の為に必死で働いています。それが神の天地宇宙です。働きずくめなのです。人は全く欲望が無かつたら生きているとは言えません。自分の命を守るというものです。ひとつの生命欲という欲望は必要です。但し、それも過ぎてはなりません。そのためにも天地宇宙の法則をよく勉強して下さい。大和は大きな和魂。そこに争いはありません。大和の教えで「争うは愛の足らぬもの」とあります。大和では争うということは「愛が足りません」と教えております。大和は因縁解除だけの宗教ではありません。

大國主天神は宇宙の生命を頂きなさいと。それが大和なのです。この宇宙はどうやつて成り立っているのでしょうか。私たち人間は神様に一番近い命と身体を頂きました。だから万物の靈長と称えられます。この宇宙を經營している命を頂いております。日常の食べ物からも力を頂いています。日元で立體です。またこの世には色々な色が有り色靈といいます。言葉(言靈)、文字靈と、これらが重なり合つて使われます。

“ドホカミエミタメ”と重ねて唱えていくと段々と象が出来上がります。創造と破壊。全てこの六つの力で行われます。皆さんはそれを五感で感じるのは感性。喜怒哀樂が出てきます。神様の最も好まれる良心をつくりましょう。その為の信仰です。祈りと感謝と奉仕という信仰を私たち大和は説きます。まずはまた、自由、自由とよく言われますが、私たちには自由などありません。自分の力ではどうにもならないものがあるということを知つておかねばなりません。その宇宙の中で絶対に変えられない、そういう宇宙の運営の中でしか私たちは生きられないのです。私たちの太陽の教えといふのは、天地宇宙のその中でどう生きるかを教えて下されます。神拝詞には全てが説かれています。大和は“いきるちえ”そのものなのです。ですから、神様の力をもらう祈りをして下さい。大和の祈りを正しく行い、叶えたい、幸せにしてあげたいと。また、悪いものは祓つて壊さねばなりません。それが、破壊と創造の両方の力が必要です。昔は母親の力、父親の力が有りましたが、それが、今はそれが崩れてしまいまし

た。淨明正直の中で大和は何が一番大切と説いておりますか。一番は明るくです。朝晩と太陽の光は違います。一番力を頂けるのは朝の光です。私たちがしつかりとした命の力を頂けるのは天地の力しかありません。それを上手に生活の中に取り入れて、せめて三十分は祈りの時間を持つることです。これが絶対条件です。心を込めて拝むことです。救われるような祈りを日々行い、身に付けるよう家庭でも実践して下さい。

## 素盞鳴尊大神 櫛名田比売大神社竣工祭

十一月二十八日午前十時半より此度新たに大國神庭の大國主天神御神像(おおみすがた)東方隣に建立されし、素盞鳴尊大神、櫛名田比賣大神を併せ祀りし石宮の竣工奉告祭が斎行された。

先ず祈祷殿にて斎主教主様のもと御神体に御神靈を鎮奉る御神鎮之儀が執り行われた。淨闇の中、厳かな火と水の秘神事によつて、御神体に両神がお鎮まりになられた。続いて、教主様、大國神庭へと移動申し上げた。祭場では斎主嗣親様により御扉が開扉され御神体が奉鎮された。典儀より開祭詞が告げられ、饌が供せられて後、嗣親様により嚴かに祝詞が奏上された。引き続き、玉串拝礼が行われ大前に奉賛者一同が拝礼をなした。

祭儀の結びに教主様より「皆さんの篤い心で、こうして立派な御宮が建立されました。三年程前からの私の念願で御座いました。

また、松田会長さんは五代駒藏のご襲名おめでとうございます。こちらの大國主天神御神像(おおみすがた)も開祖様の代に四代目駒藏さんが造られた御神像です。私は開祖様の開かれたこの御山に、素盞鳴尊大神、櫛名田比賣大神を併せて祀る石宮をとずっと思つて参りました。金剛藏王大権現様の御像も石駒さん建立して頂きました。出雲大社の御本殿の後方に、素盞鳴尊大



教主様より御親教を賜る



斎主教主様による御神鎮之儀

ろ)が鎮座しております。私も夫婦二柱の大神様をお祀り申上げさせて頂きました。たので、どうぞご覧になつて下さい。今日は大変おめでとう御座いました。「とのおことばを賜った。儀式後、参集殿レストランへと移動し直会が開かれた。

石駒五代松田駒藏様よりご挨拶を頂き、代表取締役の松田勝行様の发声にて乾杯を申し上げ、神人和楽の和やかな直会を申し上げた。

石駒五代松田駒藏様よりご挨拶を頂き、代表取締役の松田勝行様の发声にて乾杯を申し上げ、神人和楽の和やかな直会を申し上げた。

儀式後、参集殿レストランへと移動し直会が開かれた。

石駒五代松田駒藏様よりご挨拶を頂き、代表取締役の松田勝行様の发声にて乾杯を申し上げ、神人和楽の和やかな直会を申し上げた。

**皆様のおこころに感謝と御礼を申し上げます**

**石宮建立御奉賛者御芳名**

素盞鳴大神 櫛名田比賣大神